

## 平成28年度 「授業改善推進プラン」の取り組みについて

大田区立道塚小学校  
校長 長谷川 紀子

本年度、大田区「学習効果測定」の結果をもとに、『学力向上委員会』の組織のもと、各教科の課題を分析し、改善策について話し合いを重ねてきました。国語の「言語についての知識・理解・技能」は、昨年度からの校内研究で、言語能力向上を図るための様々な取り組みを行ってきたことで、伸びています。また、「関心・意欲・態度」は、全学年目標値を大きく上回り、国語の校内研究を続けてきた結果が表れています。社会科では、思考力・判断力の向上を図った指導を行うことで課題であった統計やグラフ・表などの「資料の読み取り」は、目標値は上回ってきましたが、学年によってはさらなる改善が必要です。算数は、ノート記述の充実を図る指導や5展開での習熟度別少人数指導・補習指導など個に応じた指導を行ってきた結果、「数学的な考え方」は目標値を上回り、おおむね良好といえますが、高学年では、学習カルテを活用した確実な基礎的基本的な内容の定着を図ることが必要です。また、導入での具体物を使った教材の工夫や言葉や図を用いて問題を説明したり解き方を説明したりする問題解決学習をしっかりと行っていく必要があります。理科は、「関心・意欲・態度」は昨年度に比べ上回る結果となりましたが、既習学習の知識の定着と「観察・実験の技能」に課題が残ります。

その他、「生活科」、「音楽科」、「図画工作科」、「家庭科」、「体育科」について検討しました。

詳細につきましては、次のページに分析及び改善策を提示しています。それらを基に、2学期以降の授業に向け、全教職員で授業改善に取り組んでいきます。

何よりも学習に対する姿勢が大切です。学習への意欲・関心をもたせるためには、保護者や地域の皆様のご協力も必要です。学校では「楽しく・わかる授業」を目指し、「すすんで学ぶ子」を育成していきます。今後も「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」の育成に励んでまいりますので、ご協力よろしくお願いたします。

### 【学力向上に向けての視点】～全体的に学力が向上～

- 1 【学校公開を充実】～保護者会の全体会の前にも授業参観を実施～  
児童の実態を見据え、興味・関心を引き出す授業の展開を工夫する。  
各教科指導において毎時間の「ねらい」をしっかりと定め、教材作成に努力し、評価規準に到達する力を身につけさせる。
- 2 【校内研究の取り組み】
  - ・ 平成27年度・28年度東京都教育委員会言語能力向上拠点校として、校内研究の推進を図り、教員の校内研修（生活科・総合的な学習）に力を入れ、授業力を高める。  
研修テーマは「国際社会で輝いて生きる子どもの育成」～言語活動を大切にした生活科・総合的な学習の時間を通して～であり、生活科・総合的な学習を通して思考力や判断力、表現力を育みながら、言語活動を充実させていく。
  - ・ 言語活動に関する取り組みとして、敬語の活用や俳句や短歌、百人一首、古典文学、暗唱などを行い、各学年で取り組んだものを「ことばの広場」に掲示する。
  - ・ 子供達の表現力を伸ばすため、各学年、朝の集会で、授業で取り組んだものを音読発表会として披露する。

- ・ おはなし会や本の紹介カード、読書に関する標語の作成等を行ったり図書コーナーを設けたりしながら、読書活動における積極的な推進を図る。
  - ・ 地域や専門の方を授業に招き、多様な人材の活用を図ったり地域に出かけて様々な人や物、施設とふれあったりしながら、豊かな体験活動を通して学ぶ意欲や関心を高める。
- 3 【基礎的・基本的な学習への定着への取り組み】
- ・ 朝の15分、火・木曜日は朝読書、金曜日は学習の時間として設ける。
  - ・ 3年生から3クラスを5コースの習熟度別少人数授業を実施し、大田区の「ステップ学習」「東京ベーシックドリル」を活用し、より一層充実させる。
  - ・ プレテストをもとにコース分けを行い、児童の実態に応じコース分けを行い、より理解しやすい指導に工夫を行う。單元ごとに学習した後、「確かめプリント」を実施し、その結果を「ステップ学習チェックシート」に記録し、「チャレンジプリント」や「フォローアッププリント」を全児童に取り組みせ個別指導に力を入れている。
  - ・ 毎学期に「ステップ学習チェックシート」の結果に保護者の押印をいただき、親子で学習の反省の時間を各家庭でもつ。
  - ・ 区の学習指導講師により、算数の平日補習と土曜日補習を計画的に実施し、個々の学習の理解の定着を図る。その際に、大田区の「ドリルプリント」を活用する。
  - ・ 年2回区の漢字検定に向け、反復練習を行いながら、既習漢字の定着を図る。
- 4 【家庭学習への取り組み】
- ・ 保護者に『道塚小の家庭学習のすすめ』の冊子を配布し、「反復練習」をすることの大切さを伝え、家庭学習の習慣を身に付けることを保護者と共に実施する。
  - ・ 学校公開の際には、アンケートで実施状況を確認し、更なる啓発を図る。
- 5 【体験活動への取り組み】
- ・ 夏の教員による補習や保護者・地域の専門の方から学ぶ土曜日、日曜日のワークショップ・夏の「ワクワクするスクール」における体験やものづくりを実施し、「学ぶ楽しさや作る喜び」を体感させていく。何事にも興味・関心をもたせることが、学ぶ意欲にもつながっていく。
- 6 【国際理解教育への取り組み】
- ・ 本校の特色である「外国語活動」の授業に関しては、担任主導型の授業に工夫を凝らして年間35時間実施。
  - ・ 1年生～4年生は「ワールドタイム」という時間を設定し、英語に慣れ親しませている。
  - ・ 年に1～2回「国際交流の会」で外国の方をゲストに招き、英語でのコミュニケーション能力の素地を養っている。高学年は、英語で司会や挨拶を行い、日本の伝統文化等の交流を図る。
  - ・ 授業で学んだ英語を実践的に活用できる場として、「英語カフェ」を昼休みに実施している。外国語指導講師と共に各学年別に行っている。
- 7 【体力向上への取り組み】
- ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」を基本的な生活習慣とし、生活のリズム・規範意識などの指導に力を入れ、保護者の協力のもと「体力の向上」と共に「学力の向上」を図る。
  - ・ 一校一取組 全校での学期ごとの取り組みを年間を通して継続して行う。